

## 宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会イノシシ部会会議録

日時：平成27年9月4日（金）

午後1時30分から3時30分まで

場所：県庁12階 1201会議室

### 配布資料

- 資料1 平成26年度イノシシ保護管理事業実績報告書（案）
- 資料2 平成27年度イノシシ管理事業実施計画書（案）
- 資料3 平成26年度イノシシに関する各種データ

### 1 開会

（始めに、事務局が開会を宣言し、新たに委員となった10名を紹介後、配布資料の確認が行われ、玉手部会長が挨拶を行った。）

### 2 挨拶（玉手部会長）

宣言に先立ち一言だけ、御挨拶申し上げる。皆様よく御存知のとおり東北地方南部では福島県他、イノシシによる被害が急激に増加しており、東北の北部まで更に将来的に拡大するのは必至の状況である。宮城県のイノシシの保護管理は宮城県のみならず、東北全体の農業に非常に大きな影響を及ぼすものと考えている。皆様のできる限りの適切な対応をお願いする。それでは、宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会イノシシ部会を招集、開催する。

（事務局より定足数の報告が行われ、委員10名中9名が出席しており、宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会条例第4条第2項の規定により本会議が有効に成立していることの報告が行われた。また、会議については原則公開であり本会議についても特段の支障が無いことから公開で行うことを説明した。）

事務局：以降の進行について、玉手部会長にお願いする。

### 3 協議事項

- (1) 平成26年度イノシシ保護管理事業実施計画の実績について
- (2) 平成27年度イノシシ管理事業実施計画について
- (3) その他

**部会長**：手元の次第によると本日の協議事項は（1）平成26年度イノシシ保護管理事業実施計画の実績について、（2）平成27年度イノシシ管理事業実施計画について、（3）その他である。始めにお断りするが、その他については毎回各委員に御発言を伺っているが、今回は事前に仲谷委員がその他で話がしたいということなので、それに関する資料を直前に配布して議論する。仲谷委員は冒頭に説明したいという話だが、その他の部分なので、まずは協議事項（1）平成26年度イノシシ保護管理事業実施計画の実績について議論をして、（2）平成27年度イノシシ管理事業実施計画を理解する上で、仲谷先生の情報が必要だと思うので、進行をみて途中で仲谷委員から説明をしていただく。それでは、（1）平成26年度イノシシ保護管理事業実施計画の実績について、事務局から説明願う。

**事務局**：（資料に従い説明）

**部会長：**協議事項（１）は２６年度の実績について内容の検討・評価を行って実績を確定するが、内容の記載について御質問・御意見はあるか。被害金額や捕獲数の目標は決定しているが、被害軽減目標については、ほぼどこも目標を超えて被害が出ている。捕獲については中には目標数よりも多く捕獲したところもあるが、必ずしも軽減につながっていないということである。何か委員から御質問・御意見はあるか。齋藤委員，どうぞ。

**齋藤委員：**仙南だけではないと思うが、去年捕獲したイノシシに比べて今年のイノシシは大きいと誰もが言う。私の憶測では原発事故の時に捕らなかつたイノシシが大きくなって、それが増える為に大きくなったのかと思う。ある人が８０頭近く捕獲したイノシシのうち、４０頭近くに子がいたらしい。資料３の７ページで狩猟延長期間捕獲数の割合が２８．５％だが、この延長期間中が腹の中で子供を育てる期間だと思う。今年は去年獲った為に少なくて掛からないという。箱わなは、１才未満の小さいイノシシを獲るのに良い。それに合わせて大きいのを獲るにはくくりわなの効果が大きいと思う。くくりわなでの捕獲の研修等を行って、捕獲を拡大すれば実績は上がると思う。

**部会長：**県北の色麻町や加美町で行っている巻き狩りについて詳しい情報はあるか。というのは、巻き狩りの場合は全部獲っているのではなく、市町村に獲ってもらうやり方なので、その時どのくらい震災後目視されたかということで、ある程度、個体数の増減を見る場合もある。加美町では２１頭獲っていて、巻き狩りで２１頭は相当な数だと思う。実際出たやつ全部獲っているわけではないと思う。そういった情報が実は重要なデータになると思う。これは保護管理計画なので実績を基に次年度の計画を改善していくということであれば、この中の評価の部分が非常に重要だが、市町村によりそのところは多様であると思うが、このところ何か、委員の方から良い提案はないか。これをここで確定すると決まりだが、ここで何かもう少し書き込んでほしいとか、こういった視点は今までなかった等、市町村では色々悩みながら書いていると思うので、元になるものを載せてあげたい。例えば、丸森町などでは長年イノシシで被害のあった町なので、例えば被害の増加についても元々の数自体が増えてきている一方で電気柵を増やしつつあるところ、例えば白石だと電気柵を移設した場所で被害が起きていて、被害軽減対策を計画通りにやっても被害があるので地域によってかなり違う。

**齋藤委員：**仙南でも丸森や角田で巻き狩りを行っているが、巻き狩りにも色々あり犬によってやり方が違う。プロットハウンドという外国の犬を使う場合、イノシシが入って行った山に犬をかければ良いが、日本犬の場合はイノシシが歩いて行って、ここで寝ているだろうというところまで追いかけて行き、そこに犬を放す。私は日本犬でしているが、仙北の巻き狩りは犬を使ってやっているのかどうなのか。仙北の場合は雪が多いので、足跡を辿って行って人だけでもやることは可能である。雪が多いときは足跡を辿って追い出すのが一番だが、とにかくイノシシはずるい。雪が多い時に追い出しをかけて、２メートルくらい前まで追い込んだが出て行かない。出ない。それくらいずるい。大きいのは特にずるい。その辺のやり方である。多分、仙北は雪が多いので、犬を使わずに人がしていたのかと思う。

**事務局：**その辺の情報の把握をきちんとしていなかったが、県北の鳴子では歩いて行くという話を聞いたことはある。

**仲谷委員：**実績報告自体は事実としてこうだと思うし、自己評価ではあるが間違いはないとも言える。ただ、委員として私達がすべきことは、この資料を基にして何が言えるのかを整理して、全体像を明らかにすることで、丸森や大河原等について個別に議論を先にしても有益ではないだろう。資料３にあるような被害金額や目標、作物や農業生産額を整理すれば、各地域でどんなことが起こって、どこが特異

な変動をしているのかがわかる。それをグラフ化すれば、今、注目して対処すべき地域は北部か、仙南地域でも丸森はイノシシが満杯になって平衡状態なのか、岩沼は急増しているがなぜかとか、こういう課題を浮き上がらせて検討できる。そういう形で利用できる資料を、次回の検討会には提出して欲しい。折角、資料を収集しているわけなので、有意義に使えるようにグラフ化するなど、整理して準備して欲しい。しっかり評価と課題整理をして、次年度に反映したい。過去の事実の善し悪しを評価することは重要だが、さらにその評価をどう次に反映できるかも大切である。耕作放棄地などの問題も書いてあるが、単に事実を報告するだけでなく、農業関係部局とも連携して今後の対応を考えて欲しい。今の段階では無理だとか、これは緊急度が高いとかいうのを具体的にピックアップして検討したい。資料を電子ファイルで頂ければ、より効率的な議論ができる資料の作成について助言できる。検討していただきたい。

**部会長：**それに関連して、私からリクエストで被害防止対策の効果・検証という視点で見ているが、これだけだとなかなか理解できないので、一つ問題点をあげれば例えば電気柵を設置した際に電気柵を設置したらそれでOKなのか面積として。一般的に電気柵は効果的な手段だと考えられているが、一つの例だが、やり方によっては失敗するところもあり、色々な問題もある。宮城県ではそれぞれの市町村でされている保護対策に関しての検証をある程度データとして整理して、分析されていると思うので、そこでどういう評価をするのかということができれば情報として欲しい。なかなか難しく市町村単位で事業をしているのでそこで事実的に評価をしているが、我々がこれを見たときに例えば評価についてもこれを書き込んだ時にそれぞれの市町村がどういう姿勢で取り組んでいるかを反映しているので、それに対してこちらから色々な助言をしていく。その点ではあまり書き込んでいないところでも、とても苦労していて書き込んでいないところもあるし、どうやっていいのかわからなくて書き込んでいないところもあるので、本当はこの会議でこれはどうなのか、また、更に中身を検討していくのがそうなのだろうと思う。例えば丸森町の被害軽減目標の評価が「前年度に比較し、被害面積、被害額ともに増加」とあり、これは何も知らなかったらどう評価したのかと思うが、実は丸森町を我々はずっと見て色々な努力をされているのがわかるのできちんと評価できる。名取市を見ると「被害調査の結果、予想を超える被害面積と金額であった」で額的にも小さいが、実際の被害防止対策の表を見て、どのくらいされているのか、なかなか解り難い部分がある。もう少し仲谷委員が言ったように細かい話も教えてくれると関係するのかなど。この資料1に関して、お気づきの点など他にあるか。

**仲谷委員：**いくつかあるが後で一括して話したい。例えば、白石市の被害金額が何故こんなに高いのか。蔵王も急激に増えていて、岩沼も増えている。異常な値を示すいくつかは私の想定内ではあるが、白石市は全国的にも特異だと思う。特異なところで何が起きているかを考える必要がある。後で少しコメントしたい。

**部会長：**市町村単位ではこのように自己完結的に評価をするが、実際は繋がっているんで、ある地域で重点的に被害対策をすると他の地域で被害が増えることが当然ある。もう少し細かいデータがあるので、そこは宮城県の試験研究機関ですることだと思うが、電気柵が設置されている場所や対策がされているところ、被害が出ているところを一回、行政単位を全部なくして市町村を越えて連続したところで見の方が良いと思う。有害の捕獲表が上がってきているはずなので、ただ、まだメッシュ単位かもしれない。以前から申し上げているが、もう少し詳しい地点データが欲しい。例えば、白石で増加している、先程言っていたが、柵が設置されていない部分の増加だったと思うが、具体的にどういうところなのか、その横ではどの程度の対策がなされているのかできれば見たほうがいい。この委員会で検討するために、試験研究機関等で分析をして欲しい。市町村単位で見ると説明できない部分があるので、こうやってみると何らかの因果関係があると思う。

**仲谷委員**：特定計画の設立時から、宮城県の対策はイノシシをどれだけ獲るかということよりも、イノシシの分布を広げないことを重視する方向で議論を重ねてきたが、今回の資料では活かされていない。県単位で5キロメッシュ区分があるので、生息メッシュ数が増えたのか減ったのか、また、各メッシュでの多い少ないのランク分けがどう変化したのかを見ておきたい。1，2頭しか獲れていない地域でも、今後増える可能性があるので、分布域を把握してしっかり対応したい。もう一つ、出来れば市町村の報告書の中で、集落毎にイノシシがいるのかいないのかのチェックを大まかで良いので行いたい。例えば、被害の多い角田市内で、もしイノシシのいない集落が10集落あったら、いないままにしておくのが良い。他の地域でいかに獲っても、いないところにイノシシを追いやるとやがて増える。イノシシの生息域が広がっているのか、いないのかを、捕獲数以上に重要視した資料を作ってほしい。県では、県北地域と県南地域を大雑把に分けて、生息域の面積が広がったのか、広がっていないのか。市町村ごとでは、イノシシの分布が広がっているのか、広がっていないのか。市街地に来ているのか、来っていないのか。そういったことを具体的に検討した。

**事務局**：今の点で27年度以降行うことになるが、捕獲メッシュの関係でこの春に鳥獣保護法が改正された段階で、保護管理計画を管理計画にするか保護計画にするかの選択で生息域が拡大している場合、環境省は管理計画にするということであった。イノシシの場合は何も考えずに管理計画だが、宮城県で平成18年以降の資料2の捕獲メッシュを調べたところ、平成18年度に狩猟で捕獲されたメッシュは県内で44メッシュだったが、25年度は87メッシュに広がって、県全体なので細かいところは別だが、そういう意味からすればイノシシの保護管理計画を立てたのが平成19年から20年なので、折角立てて色々な取組をしたが、結果的にこの7，8年はメッシュだけからすれば倍くらいの地域に生息域が拡大していることは我々も把握しており、何とかしなくてはと考えている。宮城県ではこれ以上広げない為に環境税を使い県北で個体数調整を行っているが、26年は捕獲技術もあるが15頭しか獲れない辺りが我々のジレンマになっている。他に生息分布に関しても国の補助事業があるお陰で、今年度と来年度の事業で市町村毎の実際に有害捕獲で獲った場所や目撃情報を全部集めて地域で落として、過去の数字も拾って市町村毎に生息分布域と土地利用と合わせた分布域を早急に27、または28年度の事業で、本来は県の機関でできれば良いのだが、我々にノウハウがないので業者に委託して早急に行いたいと思う。遅いと言われればそれまでだが、次回28年度に計画を新しくするにあたり、その時のデータ収集も合わせてやりたいと準備は進めているので、先生方に御助言や御指導をいただきたい。

**仲谷委員**：皆さんが予想していることを数値で裏付ける結果になるかもしれないし、予想以上に悪化する可能性もある。例えば県北をどうするかという部分で、猟友会に「もう少し頑張ってくれ」と言うだけでは、猟友会も「私達は頑張っている」というしかない。データを出してもらいながら、いつどの様に捕獲するかなど、具体的に猟友会と県が連携しないと効率的に対策が進まない。今までの情報を整理して、これからの具体的なビジョンを考えること大切だ。単なる現状報告に留まれば、対策が進まず、時間が無駄に過ぎるだけで状況がさらに悪化する。

**部会長**：この(1)平成26年度イノシシ保護管理事業実施計画の実績については、この辺でよろしいか。仲谷委員からも話があったが、来年度について中長期的な方針をある程度考えながらやらないといけない。冒頭で話したが若干順序が異なるが、ここで仲谷委員から、その他ということで説明をいただきたい。

**仲谷委員**：「宮城県全体を具体的に考える」ということで市町村毎の被害金額や捕獲数について大雑把な予測

を試みた。これはあくまでもたたき台なので、個々の部分については皆さんの御意見や地域の詳しい情報を入れて改善したい。現状の被害金額が青、将来、被害程度が仙台市レベルになった場合が赤、角田市レベルでは灰色になる。将来、登米市や栗原市、さらに大崎市の被害が大きくなることが予想される。今後、県北、或いは、県の東地域の被害対策をどうするかが緊急課題である。捕獲数については。

**部会長**：角田市と仙台市のパーセンテージが違うと。

**仲谷委員**：両者の被害レベルが異なる。

**部会長**：設定数値が違うということか。

**仲谷委員**：はい、被害レベルの設定数値が異なる。

**部会長**：ここで名指しされた市町村は気分が良くないと思う。

**仲谷委員**：白石市の被害は角田市レベルを超えて高く、その理由を丁寧に検証することも大切である。もし、県全体が角田市レベルではなく、白石市レベルになったとすれば、予想される被害はさらに大きくなる。このような危険も視野に入れた検討が必要だ。捕獲頭数について予測すると、もし、イノシシの生息地が全県に広がって角田市レベルの捕獲が生じると、とてつもない数となる。県南と県北では、森林の質が異なるし、農業や人間活動にも差があるが、もし、県北地域が県南地域と同じようなイノシシの生息地になる場合を考えて、今後の検討をすることも大切である。ただし、いろいろな状況を検討し、予測値を改善する必要があることは言うまでもない。いずれにしても、市町村毎に将来どの程度の捕獲数が必要になるかを考えておきたい。将来の被害金額や捕獲数は、県北地域が県南地域の比ではなくなる危険があることは、容易に想像できる。地域毎に見れば、仙南地域で全域が角田市化しても、被害はそう増えず、かなり満杯状態で、落ち着く一定のレベルに達している可能性もある。ただ、蔵王や七ヶ宿は森林面積が広く、丸森や角田よりもむしろこの地域で捕獲数が増加するかも知れない。丸森で気になるのが2,000頭を捕獲する能力がある様に感じるが、2,000頭獲っていないのは、捕獲に疲れているか、捕獲の意欲が減退している可能性もあるのではないかと。箱わなとくくりわなの違いによっても差が生じる。仙台地域は今後さらに酷くなるだろう。北部の登米市や栗原市なども同様。気仙沼地域は農業生産額が少ないので、農業に対する被害額が比較的少ないかも知れないが、ある程度の捕獲数は必要となる。緊急に今考えなければいけないのは、仙南の被害の多いところも当然だが、北部に本格的にイノシシが進出した時の被害は桁が違って甚大になることを認識することだ。さらに詳しく言うと、丸森の被害は急に増えたように見えるが、角田レベルで予想したよりも小さい範囲に留まっていて、もう少し増加するかも知れない。川崎はまだ少なく、柴田なども増える可能性がある。あくまでも予想だが、そう言う予想をしながら、事実になって行くかを見ていけば良い。白石はまだ捕獲数が増えるだろう。当然、推計では、計算ミスや仮定の妥当性などを検討する必要がある。亘理は農業生産額が非常に高いので、そこにイノシシが入って被害があった時に大きな被害となるかもしれない。逆に言えば亘理の森林面積が小さいのであれば、そこからイノシシ全部を取り除いてしまう戦略もある。仙台市の予測捕獲数は多いが、防除を主たる戦略にすると、捕獲数の増加には結びつかない可能性がある。それはそれで評価でき、一つの選択である。仙台市と協力して防除効果をしっかり評価すれば、宮城県全体に大きく貢献できる。他県の資料だが、地域的に連戦連敗して、県土の大部分をイノシシに明け渡しているところもある。戦略なしに柵をしたため、また捕獲をすることで生息地を広げることはないかといった検討も必要となる。ち

なみにイノシシの増加率が1.18くらいと言われているが、宮城県はどう判断しているか。

**事務局**：東北地方しか出ていないが、1.18である。

**仲谷委員**：現状を反映しているかを考えておく必要がある。アメリカでは2.1と言われる。ある研究者の資料を分析したが、イノシシの死亡率が50%を超えている。しかし、そのような地域でもイノシシの数は減っていないと言われる。2倍くらいの増加を考えた方がよいのではないか。齋藤委員が言われたように1頭から何頭も子供が生まれれば、1.18で留まるとは考えにくい。

**部会長**：前提として一定の被害率を想定した上で、いくつかのシナリオにおいて、それぞれの市町村を当てはめたということで、特定の市町村名をモデルにするのに私は若干ためらいがあるが、そのところはどこをモデルにしたかは仲谷委員から宮城県へ他県のモデルも含めて伝えていただきたい。この資料は色々な方が見る場合があるので、どう説明したら良いかという局面もあると困る。ただ、多分、今おっしゃっていることについて基本的に被害額は市町村の土地利用や農業生産によってどのようなものを生産しているか、どの程度の対策を講じたら良いか、電気柵の面積、あとは密度効果があるので、その4つで基本的な被害金額を導き、他に隣接市町村の状況が関係してくると思うので、人間がコントロールできるのは密度の部分だと思うので、これは駆除圧。土地利用に関しては例えば緩衝帯等、色々な耕地以外のところの森林の状況で農業生産に関しては、そこをいかにどの程度コントロールできるかで、それがわかれば先程、仲谷委員が言われたような被害金額はこうなるだろうということも出てくる。この資料はそれぞれ要素で説明しているので、実際に複合した結果で被害は出てくるので、ある程度単純化されたものだけということである。他に何かあるか。

**高橋委員**：仲谷先生のお考えを確認させていただきたい。この数字が出ると非常に県北域が角田市化ということで一定の捕獲数や被害額の割合を市の農業生産額や森林面積を掛けて絶対額を出しているの、それであればこのようになる可能性があるが栗原、大崎、角田、丸森、白石の仙南地域と同じ状況の市町村と捉えればこれでも良いかもしれないが、県北域は御存知の通り全部広域合併しているので、そもそもの母数が絶対的に大きくなっているの件数を掛けただけでも上がっているのではないかと思う。実態の推測をする意味では絶対数を求めるよりは、その傾向数値を何らかの形で推測した方が分布状況にマッチするように素人ながら思う。大崎や栗原は旧10町村。角田市は1市で3,500ヘクタールくらいなので、比較するとすれば仙南域が今どうなっている状況か、例えば、仙南の大河原圏域が9町村なので、それと同じ状態が大崎や栗原なので、その比較をされる必要はないのかと思う。最終的には10町村分が全て角田市化したら、もしかしたらこの数字かもしれないが、その辺はどのように捉えたら良いのか。

**部会長**：私の印象では単純比較はできないと思っている。営農規模も違う。

**高橋委員**：同じことを鳥獣の被害以外に私達は農地の集積の話も現在推進しているが、結果的に大きな町は大きな集積面積で絶対数を上げてあげなければいけないという話になっているだけなので、角田市化といって10町村を足しているだけとしか感じない。

**仲谷委員**：資料の制限などもあり、問題点はたくさんあるのは事実である。私がお話ししたいことは、いまある資料を活かして今後の対策を考える資料とすることの大切さである。もし、さらに詳しく検討する必要があるれば、登米地区を旧市町村に分割して分析協議すれば良く、丸森町も旧市町村等で、また、集落ごとに吟味すればよい。今回紹介したのは、たたき台で、この様な視点に立って具体的に考えな

ければ、前に進まない状況になっていることを確認して頂きたい。面積が広くなれば被害金額が大きくなるのは当たり前。登米地区が将来いくらぐらいの被害を生じるかは、現時点で推定可能ではないか。そのうえで、登米地区の中で何処が問題なのか、何が問題なのかを丁寧に考えていく必要がある。作物も何を作っているのか、米の被害なのか、果樹の被害なのかで全く違って来る。たとえ現時点の予測被害が過剰であったとしても、今後、増加すると言う点では間違いないだろう。被害が深刻化しないうちに、丁寧に検討していただけたら有り難く、大まかな推定であっても皆さんからも独自に推定して出してもらえないだろうか。そうすることで具体的に検討して行けば、どの地域が今後重要で、また、現在、どの地域が遅れているかも明らかになってくる。いままでの資料の提示では、単なる報告に留まり、「ああ、そうですか」で終わってしまう。

**高橋委員：**私は素人でよくわからないが、もう少し丁寧な分析ができないものか。角田市化とって平方メートル単位や1,000ヘクタール単位に割り戻した形で比較をしてみる方が必要なのかもしれないと思う。積み上げれば10町村が積み上がっている市が当然高くなるわけで、それが市の行政として大きな被害額が発生する訳なので、当然それに対応する予算の費用が上がるだろうと。角田市の財政力も大きな町は大きく予算を付けられる可能性もあるという部分の比較にはなっていると思う。

**部会長：**先程手を挙げていた森委員。

**森委員：**資料1ページの一番下の凡例によれば、平成17年度の農業生産額をもとに平成25年度の被害額から仙台市、角田市の被害率を求め、その被害率に基づいて各市町村の被害金額を推定しているものと理解してよろしいか。

**仲谷委員：**25年度の市町村別の生産額の資料がないことによる。その資料があればもっと良くなる。そういうことを皆さんと知恵を出して「これは古いデータだからあまりよくない。だからもっと良いのを出そう」となれば、さらに前進できる。

**森委員：**次のページ以降に捕獲頭数が掲載されている。角田市化するという事は先ほどの説明から1kmあたり15頭捕獲することと理解したが、参考まで、捕獲頭数が仙台市化するという場合は単位あたり何頭になるだろうか。

**仲谷委員：**仙台市の捕獲レベルは角田市よりも低いので、ほぼ半減程度になるかと思う。

**部会長：**時間も限られているので次に移りたいが、これを作られた意味というのは危機感を持ってほしいということがあがると思う。注意というか釘を刺すわけではないが、こういう数字は単純に示すと色々な誤解を招くので、本来はあくまでも被害金額や捕獲頭数の予想だが、色々な要素を複合して行って、それをきちんと分けて被害金額にどのようなものが影響を与えるのかを調べて、実際にデータを調べるのは可能で、ただ、やっていないのはやれる人が少ないからで自治体でやる余裕がないからで、さきほどだめになった話もあったが、そういうのを専門に分析する人達がいるので、問題を引き取って私もそういうところに相談をしてみる。先程も申し上げたように土地利用とか農業生産の様態、対策の面積とかそういったものが全部かかっている話なので、モデル化いわゆる数字モデルとして調べることができると思う。私もそこを検討してみる。それでは、(2)平成27年度イノシシ管理事業実施計画について事務局より説明願う。

**事務局：**(資料に従い説明)

**部会長**：私から2点ほどだが、例の指定管理鳥獣等があるというのは昨年と比較して何か基本的な考え方とか変更はあるのか。

**事務局**：宮城県環境税を使って県北で行っていた個体数調整だが、その環境税の使い方の整理として市町村毎に有害鳥獣の個体数調整をしていただき、県の役割としては県北への拡大を阻止する為に県が個体数調整を県北で行うという基本的な役割分担は変わっていない。基本的には財源に県の環境税プラス国の補助金を使うことで事業費を増額して、去年の元々の計画の50頭で15頭しか実績はないが、何とか去年を上回る最大70頭まで獲りたいと基本的な考え方は変わっていない。

**部会長**：どうして県北でばかりするのかという意見はなかったのか。

**事務局**：ありました。

**部会長**：そういう意見がある中でも、その点では基本的に一貫しているということか。

**事務局**：基本的には変えていなくて、被害のある地域で宮城県環境税もしくは国の補助事業を使って獲って欲しいという要望が蔵王町や白石市からもあるが、実際問題として丸森町で町の事業と宮城県の事業を一緒にやりますということで、例えば齋藤さん（丸森町の有害鳥獣捕獲隊長）に頼んだ時に実際に獲れるのかという問題もあり、取り敢えず27年度の考え方は同じで、宮城県としては宮城県全体のことを考えて、拡大することが宮城県全体のマイナスになるということで、拡大・阻止の部分で拡大する部分を獲るといっている。ただ、県北地域との境の部分が増えることで県北に行くということであれば、例えば、仙台市は一生懸命されているので仙台市に宮城県からお金が入ることはないが、そこを抑えることで県北にいかないこともあるのかなと思うが、今のところは県北に出ている分について宮城県が獲るといって考え方は変わっていない。

**森委員**：前回の部会で、県北で捕獲を実施すると話していたが、原則として県北で実施するとの説明だったので、そのように理解している。

**事務局**：我々もそのように理解している。ただ、27年度については既に予算もついているので、そのようにやらせていただくが、今年度は国の事業で生息数調査もするので、それも踏まえて宮城県がすべき目的を考えなければいけないと思っているが、基本的には生息拡大を阻止するのが大きな課題と考えている。それをどこでするか、改めて皆さんに御相談して御意見を賜るようになると思っているが、実際問題として齋藤さん（丸森町）のところ宮城県でお金があるからあと500頭獲ってと言ってできるのかという問題もあり、そのあたりは今後詰めていかなければいけないと思っている。もしかしたら、名取市や岩沼市等でやるべきなのかと思ったりもしているが、その辺はこれからの議論かと考えている。

**部会長**：他の市町村部分を見たときに昨年度と大きく変わったところはあるか。

**仲谷委員**：個々の市町村を見ると全体的な構想が全く無く、単に何%減と書いているが、本当にできるのか不安がある。宮城県の被害もどんどん増加して2億円や4億円になるということはないか、農業が撤退という状況が起こることはないのか。市町村で注目すると、仙台市の今後の変化と被害金額が異常に高い白石市の状況とがある。部会長が指摘されたように、地域の何処に柵があって、被害がどう生



じているのかを調べるのが大切だが、宮城県全体で調査するよりは、白石市をモデルとして、そこに何が起こって、何をやるべきなのかを農業分野と手を組んで調べて頂きたい。角田市や丸森町は現状で平衡状態と言えるかも知れない。これ以上の捕獲は明確で組織的な計画がない限り難しいかも知れない。資料を見る限り、蔵王は増加モードになりつつあり、これまで通りの対策で本当に被害の減少は可能なのか。「もう少し頑張ればどうにかなる」という発想だけで動き過ぎてはいないか。宮城県は各市町村に周囲はどういう状況か、今後の予想などを知らせない限り、しっかりとした計画が立てられず、単に20%減で今回は何%減だとか、毎回一喜一憂するだけの言葉の報告で終わる。財力などが豊富な仙台市はどうにかなるかも知れないが、多くの市町村はそうではない。今後のことを考えると、もっと危機感を持つことが大切で、市町村を越えた広域の連携も必要となる。農業部局と戦略を考えながら、市町村を指導して頂きたい。とくに、イノシシに侵入された市町村は次第に生息数が増加し、西日本でさえ深刻化している。宮城県だけはそうではないという気持ちは分かるが、農業部局と一体化した戦略を考えてほしい。

**事務局（農産園芸環境課）：**被害額について仲谷委員と事前に話し合いをした際に、2億円というのは鳥獣全体の被害でイノシシ自体は1億2,000万円である。前年の25年度が7,700で約5,000万円増えているが、25年から26年度は宮城県全体の被害もほぼ同額の増額で、イノシシによる被害で宮城県の上昇分が起きたというのが25年から26年度で、宮城県全体が2億円を超えていたという数字なので、イノシシ全体では1億2,000万円であると修正する。

**仲谷委員：**農業が大きく衰退しない限り、このままでは将来的に2億円に達するのは、ほぼ確実だと考えている。

**部会長：**他に御意見・御質問はあるか。それでは、議題（3）その他だが、先程、順序を変えて仲谷委員から御説明があったが、他に何かあるか。私から一言で、これは毎回申し上げていることで、沿岸部に向かって拡大しているということで、山元町の27年の計画で6号線以降の浜通りを越えていっている話で、環境を考えると、ここと同じような場所は中央部でもあるので、先程も申し上げたが、この計画にない市町村でも多分出ていないことはないと思う。そこはここの中の情報を把握できないので、そこは宮城県が集約されることが一番重要だと思うので、これから東部に向かって拡大する可能性が若干あると考慮して、そのところを可能であればフォローされたい。

**齋藤委員：**山元町の話だが常磐自動車道が開通した関係で、常磐自動車道を境にして東側はかなり少なくなったという話を聞いた。

**部会長：**道路の交通があるとある程度遮断されるのか。

**齋藤委員：**道路関係についてこの間友人のところへ行ったら、常磐自動車道の西と東で違うと聞いた。

**部会長：**高速道路でも相当障壁になっている。クマ等もそうですし、東北自動車道もそう。

**齋藤委員：**高速道路から閉鎖されている関係もあるし、一般道路とは違うのでフェンスのせいで遮られているのかと思う。

**部会長：**そういう物理的な障壁で今のところくい止められている部分もあると思う。多分、いずれは行く可能性があると思う。その他で私から補足するが、被害や捕獲に関して、どういうものが実際に被害軽

減に効果があるのか、どういう対策があったのかをこれだけデータがいっぱい揃っているので分析が可能かと思われる。これからどこの地域で分布拡大していくか予測する方法があるが、なかなか自治体レベルではやれないところがあるので、そういったことも含めて試験研究機関の役割は大きいと思っている。自己宣伝になるが東北南部の野生動物の保護管理の勉強会をしていて、今年の2月に山形大学主催で自治体の方にも御参加いただいて情報交換会をした。今年の11月下旬に今回は福島で行うことになっていて、恐らく今日の議題や放射能対策もあるので宮城県の関係者にも何か参考になる情報が有ればと思っているので、それについての日程を山形大学でアナウンスさせていただきたい。それでは本日の議題については終了として、事務局にお返しする。

**事務局:** 玉手部会長ありがとうございました。以上をもちまして、本日の宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会イノシシ部会の一切を終了いたします。委員の皆様におかれましては、御多忙の所お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。